

台風12号・15号災害救援



被災地住民の生の声を大切に…
(那智勝浦町)

那智勝浦町社協・新宮市社協を支援

近畿ブロック社協からの応援要請に応え、台風12号で大きな被害にあった那智勝浦町社協（9/9～13）、新宮市社協（9/28～10/3）それぞれに本会職員を派遣し、同市町に設置された災害ボランティアセンターの運営支援を行いました。

「被災地住民の立場に立ち、暮らしの立て直しを支えること」と、「地元市町社協の役職員を支え、一日も早い日常業務への復帰を手助けすること」を念頭に支援にあたり、被災地住民の要望や依頼の把握、ボランティアの受入調整等の業務に携わりました。

しかし、現地では立ち入りが困難な地域があり、被災地の復旧・復興に要する期間も長期に及ぶことから、今後も長期的な支援に取り組む必要があります。

（本部・一宮支部：波多野好則）



洪水で歩道に流れついた砂やゴミを除去し清掃

淡路市でボランティア

10月1日(土)

台風15号で被災した淡路市の災害救援ボランティア活動を行いました。

この日は、本会職員14名がボランティアとして参加し、現地災害ボランティアセンターの説明を受け、氾濫した志筑川周辺の歩道や側溝の清掃作業を行いました。

少しでも恩返しがしたい！

9月18日～19日
那智勝浦町（和歌山県）
災害救援ボランティア活動



災害ゴミの山から分別、運搬作業

一昨年の兵庫県西北部豪雨災害で多くのボランティアにお世話になった穴粟市社協、佐用町社協では、このたびの台風12号による豪雨災害で被災されたみなさんへ出来る限りの支援がしたいとの思いで、和歌山県那智勝浦町での災害救援ボランティア活動を実施し、23名が参加しました。

9月17日(土)深夜に穴粟市役所を出発したバスは、約7時間かけて現地へ到着。心配された雨が降ることもなく、18日、19日の2日間災害ゴミの運搬、床下の泥かきなどを行いました。

「2年前の災害時には、多くのボランティアに助けてもらったので、少しでも恩返しがしたい」とあの時の災害で家族を失った小林武さん（佐用町）。炎天下の中、きびしい作業になりましたが、被災された方から涙ながらに「ありがとう」の言葉をいただき、精一杯の救援活動を行いました。

参加者からは、「まだまだボランティアが必要。このまま帰るのは後ろ髪をひかれる思いです」という感想もあり、現地は今後も継続的な支援が必要な状況です。

みなさんも自分にできるボランティアで、被災地支援にご協力ください。

（本部・一宮支部 田中祥仁）



床下に溜まった泥を手作業で取っていきます